

各 位

党派を超えて国家的課題を追求する

**公益財団法人協和協会
時代を刷新する会**

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
環境技術委員長 坂 本 忠 彦
両団体専務理事 清 原 淳 平

環境技術委員会のお知らせ (第330回)

日 時 平成28年11月24日(木) 午後2時～4時半

場 所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時半より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議 題 1、「環境問題について、昨今、思うこと」

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、『環境技術関連ニュース NO.155』

解説 中島稔科学技術部会長

3、鉄炭を利用してヘドロを除去する技術

解説 佐々木剛東京海洋大学准教授

報 告 去る10月29日開催の第329回環境技術委員会は、坂本忠彦委員長が議長を務め行われました。まず、坂本委員長より、「環境問題について、昨今、思うこと」と題して開会挨拶がありました。気候変動に係るパリ条約にアメリカと中国が批准した。世界の二大CO₂排出国が批准したことで、画期的な進展となった。しかし日本ではTPPの国会審議が優先され、まだ批准していない。このままでは締結国会議に出られないか、出ても発言権がない状態になってしまう。日本の

環境技術は世界トップレベルにあり、その技術を世界の中で生かすためにも、早期の批准が望まれる。

続いて、岩本正和中央大学研究開発機構教授より、「窒素と水素からアンモニアを生成する技術」と題して、以下の趣旨の解説がありました。アンモニアの合成には、全世界の2%のエネルギーが使われている。これは、500℃、200気圧下で反応させる「ハーバー・ボッシュ法」で製造しているためだ。常温・常圧で製造できる技術が確立できれば、エネルギー使用量を大きく削減できる。また、アンモニアは水素を多く含み、運搬も容易なため、エネルギーキャリアーとしてもいま注目されている。たとえば南米の風力発電でアンモニアを作り、それを日本に運搬し、水素を取り出して電力化するなどの利用法も検討されているところだ。岩本教授らのグループは、プラズマ法と触媒を組み合わせることにより常温・常圧化でアンモニア合成できることを見出した。ウール状にした銅などの電極を使うと効率がいいことなども分かった。しかし、収率はまだ3.5%であり、ハーバー・ボッシュ法の4分の1程度に留まっており、今後の研究成果が待たれるところだ。

最後に、中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース NO.154』の解説がありました。今回は、○パリ協定に基づく地球温暖化対策を実現するには、ガソリン車の販売を2035年ごろで終了する必要があるとの研究結果が発表された。○世界最小径の磁気冷凍用磁性体の細線を開発。従来の粒状磁性体を大きく上回る冷却能力を実現。○WHOは全世界3000都市の大気汚染状況を調査。基準値を超える地域の人口が世界の92%に上ると発表した。○耐熱1400℃の合金の開発に成功。従来はセラミックなどを使われていた領域だが、セラミックは割れやすく加工が難しいという難点があり、これに代わる新素材となりそう。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★当日会費千円にご協力お願い申し上げます。

次回、11月24日（木）の環境技術委員会に

出・欠（いずれかに○印）

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

新規参加希望者は、前日までに履歴書を事務局までFAXにてご提出ください。

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール shigeta@jidaisassin.jp